



図書館だより

志木市立志木第二中学校図書館だより 2020年6月

学校図書員 ひろみつ 弘光しのぶ

さまざまなアジサイが美しく咲き、梅雨の季節となりました。昼休みの図書館は以前とは違い、本を囲んで語らう姿や新聞をゆっくり読む姿などは見られず、皆、読みたい本を一生懸命に探し、手続きをして部屋を出ます。並んで待っているほかの生徒を気遣っての行動です。

「あの本はありますか?」「何かおもしろい本はありますか?」と、学校図書員の私に聞いてください。あなたたちの時間を節約するためにも私はいるのです。遠慮なく話しかけてください。

本のリクエストがある人は、下の部分を切り取って図書室前の袋に入れてください。

New books



- 『保健室のアンウニョン先生』 斬新な想像力と心温まるストーリーで愛され続けるジョン・セリンの魅力が凝縮した小説
- 『ぼくは風船爆弾』 戦争の本当の恐ろしさや平和の大切さ、夢や希望を持って生きることの尊さを考えさせる書
- 『倒れるときは前のめり ふたたび』 『イマジン?』 有川浩が有川ヒロにペンネーム変更後の作品
- 『イモムシ偏愛記』 多感な少女の心の成長を描く、爽やかでほろ苦い青春ストーリー
- 『戦国忠義と裏切りの作法』『幕末志士の作法』 イラストを用いて詳しく紹介される歴史好きにはたまらない本
- 『アーモンド』 本屋大賞（翻訳小説部門）第1位 偏桃体（アーモンド）が人より小さく怒りや恐怖を感じる
ことができないユンジュが、ある出会いで人生を大きく変えていく。
- 『北欧に学ぶ 好きな人ができたら、どうする?』 タイトルが興味深いですね。まずは読んでみて。
- 『ハイキュー1』 5~10 人気本の続きです。
- 『まっしょうめん!』 1~3
- 『鬼滅の刃』 1・2



29冊新しい本が入ります。
6/16から貸し出します。



東北大学加齢医学研究所 所長 川島隆太さんの「読書を脳科学する」というエッセイがとても興味深かったので、裏に載せました。ヒトとして読書するのはどのようなことなのか…。脳にどんな作用をしているのか…。朝読書の時間だけの読書でも良いことがあります。

本のリクエスト

書名 _____

著者名 _____

6/23までに図書室前の袋に入れてください。

年 組 _____

『読書を脳科学する』 東北大学加齢医学研究所 所長 川島隆太さん

私と読書の関係が深まったのは、「ヤングアダルト」の入り口、中学生時代、暇つぶしの友としての付き合いからであった。毎夜、勉強もせずに早寝を決め込んでいると、やがて両親から中学生なのだから勉強しろと強く叱責を受けるようになった。自分の勉強部屋はもらえていたものの、部屋にはテレビなどない時代である。そのため、しかたなく自分の部屋に置いてあった、両親が大学時代に読んだ小説を手取るようになった。

やがて本棚にあった本をすべて読破し、気が付くと気に入った作家の著作を片っ端から読みあさるといふ読書スタイルが出来上がっていた。小遣いがどれだけ本代に消えたのか、計算する気にもなれない。まんまと両親の姦計にはめられたわけである。もっとも大学入試で、現代国語での失点はなかったことだけは、こうした乱読の功名と知覚はしていた。

大学院終了後、スウェーデンに2年間留学。帰国した私の前に大きく立ちはだかったのは、研究資金の確保であった。当時、社会的ブームを巻き起こしていたゲーム産業の関心を引くため、ビデオプレイ中の脳の活動を計測し、それを勉強中の脳活動と比較するという作戦を立てた。私の予測では、多彩な刺激をもとに手指を使うゲームの方が、退屈な勉強よりも脳全体が働くはずであった。しかし、私の稚拙な予測を裏切り、文章を読んだり、計算問題を解いたりする時の方が、はるかに脳全体がよく活動することがわかった。そこでターゲットを教育産業に軌道変更し、読書などが子どもの脳発達に与える影響を解明することで彼らから研究資金を引き出そうと考えた。しかし、当時の大学では、健康な子ども達を研究対象とすることへの倫理的なハードルが非常に高かった。そのためしかたなく、認知症の高齢者に読書等の生活介入を行うと、医学の常識では改善しないとされていた認知機能が改善し、身辺自立機能まで回復するという驚愕の成果を得た。そして毎日の読書週間を持つ児童・生徒の学力は、そうでないものと大きな差があることも発見した。読書習慣がある児童・生徒は、適切な睡眠時間さえ確保できていれば、家庭学習時間が毎日30分もあれば、軽く平均点を超えることができる。しかし、読書習慣のない児童・生徒は、毎日2時間以上の学習時間を確保し、7から8時間の睡眠をとると、なんとか平均点に到達する。勉強嫌いだった私が、こうして大学で研究者としてサバイバルできている「理由」を見つけたように思える。

高度情報化社会の現代、多くのヤングアダルト諸君が、文字（活字）離れをしていることをとても危惧している。SNSでは、使う文字の分量は極端に少ない。音声認識エンジンの発達により、キーボードをたたかなくても、スマホやコンピュータに文章を入力することもできる。

音声言語により情報伝達は多くの哺乳類や鳥類でも行うことができる一方、文字言語による情報伝達は、地上ではヒトのみが行うことができる。コンピュータにヒト固有の情報処理を任せ、我々がヒト以外の動物と同じレベルでの生活をしようとしているのではないだろうか。

極論なのは重々承知であるが、ヤングアダルト諸君に問いたい。

読書を捨てますか、それともヒトであることを捨てますか？

YA朝の読書ブックガイド2020(YA出版会)より